

令和 8 年度

運営に関する計画



大阪市立大東小学校

令和 8 年 4 月

大阪市立大東小学校 令和 8 年度 運営に関する計画・自己評価 (総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

● 生活指導面

- 児童の中に「きまりは守らなければいけない」という意識が浸透し始めている。令和 7 年度小学校学力経年調査における「学校のきまりを守っていますか」に対する肯定的回答の割合は、95.0%で前年度より 3.0 ポイント向上した。
- ポジティブ行動支援を進め、児童の自己肯定感の向上に取り組んできたが、令和 7 年度小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童は 82.7%と、前年度より微減し目標達成には至らなかった。児童の自己肯定感や自己有用感を高めつつ、互いに尊重し合える人間関係を築く指導を継続してかなければならない。

● 学力・体力面

- 学力においては、令和 7 年度小学校学力経年調査における国語及び算数の平均正答率の対全国比は以下の通りとなっており、改善傾向にある。今後は、「主体的・対話的で深い学び」に向けた実践に注力していく必要がある。

3 年		4 年		5 年		6 年	
国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
1.05	1.09	0.92	1.03	1.10	1.14	1.03	1.11

- 体力向上については、令和 7 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、「運動やスポーツをすることは好きですか」に対し、肯定的回答が男子で 96.5% (市は 93.5%)、女子で 84.6% (市は 85.0%) と、女子で低くなっている。一方で体力合計点の対全国比は男子で 0.96 と 1.00 を下回る結果となった。引き続き、運動意欲と体力の向上を図る教科指導や体育的行事等の充実を図っていかねばならない。

● その他

- 一人一台端末の活用については、「心の天気」の入力等を中心に、使用場面は着実に広がっているものの、メディア・リテラシーに係るトラブルも増えてきており、早急に情報モラル教育の推進が必要である。

中期目標**【安全・安心な教育の推進】**

- 令和 11 年度末の学力経年調査の「学校に行くのが楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 88%以上にする。(R07: 85.0%)
- 令和 11 年度末の学力経年調査の「自分にはよいところがあると思いますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を 88%以上にする。(R07: 82.6%)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和 11 年度末の学力経年調査における平均正答率の対全国比を、国語で 1.06 以上 (R07: 1.03)、算数で 1.12 以上 (R07: 1.09) にする。
- 令和 11 年度末の「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」において、体力合計点の対全国比を、男子で 1.00 以上 (R07: 0.96)、女子で 1.05 以上 (R07: 1.01) にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和 11 年度末の学力経年調査の「学習者用端末を活用して、調べた情報をもとに、課題を解決するために情報を収集・整理し、まとめ、表現する取り組みをしていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。(新設)
- 教員の 1 か月あたりの平均時間外勤務時間を 20 時間以下にする。(R07: 20 時間 11 分)

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- 小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 87%以上にする。(R07 : 85.0%)
- 学校生活アンケートにおいて、「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対し、肯定的に回答する児童の割合を 87%以上にする。(R07 : 85.4%)
- 小学校学力経年調査における「自分には、良いところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 84%以上にする。(R07 : 82.6%)
- 学校生活アンケートにおいて、「自分にも友だちにもいいところがありますか」に対し、最も肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。(R07 : 89.0%)

【学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年においても前年度より 0.05 ポイント向上させる。(R07 : 3年 1.05、4年 0.92、5年 1.10)
- 本校独自実施の1・2年全国テストにおける、国語の平均正答率の対全国比を、1年は100.0以上にし、2年は1年次(99.7)と経年比較し0.5ポイント以上向上させる。
- 小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、3年は 1.00 以上にする。
- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方について気付いたりすることができていますか」に対して、肯定的な回答する児童の割合を 83%以上にする。(R07 : 81.7%[3年 93.0%、4年 76.9%、5年 84.2%、6年 72.5%])
- 学校生活アンケートにおいて、「みんなの力で考え、調べ、話し合ったりしながら授業を進めていますか」に対し、最も肯定的に回答する児童の割合を 65%以上にする。(R07 : 63.4%)
- 学校生活アンケートにおいて、「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対し、肯定的に回答する児童の割合を 88%以上にする。(R07 : 86.2%)

【学びを支える教育環境の充実】

- 小学校学力経年調査の「学習者用端末を活用して、調べた情報をもとに、課題を解決するために情報を収集・整理し、まとめ、表現する取り組みをしていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 40%以上にする。(新設)
- 教員の1か月あたりの平均時間外勤務時間を 20 時間以下にする。(R07 : 20 時間 11 分)

3 本年度の自己評価結果の総括

--

(様式 2)

大阪市立大東小学校 令和 8 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】 ● 小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 87%以上にする。(R07 : 85.0%) ■ 学校生活アンケートにおいて、「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対し、肯定的に回答する児童の割合を 87%以上にする。(R07 : 85.4%) ● 小学校学力経年調査における「自分には、良いところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 84%以上にする。(R07 : 82.6%) ■ 学校生活アンケートにおいて、「自分にも友だちにもいいところがありますか」に対し、最も肯定的に回答する児童の割合を 90%以上にする。(R07 : 89.0%)	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
取組内容①【基本的な方向番号 1、安全・安心な教育環境の実現】 ○ 安心して楽しい学校生活が送れるよう、児童の道徳心や人権感覚を醸成する取組を実施する。		
指標 ➤ 各学級で、仲間づくりの取組を学期に 2 回以上行う。 ➤ 外部講師を招き、SNS の適切な利用方法等、情報モラルに関する授業を、中・高学年児童を対象に 1 回以上実施する。		
取組内容②【基本的な方向番号 2、豊かな心の育成】 ○ 「エビデンスベースの学校改革」導入校として、「ポジティブ行動支援（PBS）」に取り組むことで、児童が自己肯定感を高め、自分や相手を認めることのできる集団の育成を図る。		
指標 ➤ 全校朝会毎に児童の良いところを全体で共有し、望ましい行動を意識付ける。 ➤ 今年度作成した PBS マトリクスに基づき、各学級・学年で、具体的目標の達成に向けた取組を学期に 3 回以上見直しながら継続的に実施する。 ➤ 児童集会でのたてわり班遊びや月 1 回のたてわり班そうじ、たてわり班による大東まつりを行い、異学年交流の機会を増やすことで、児童の思いやりや責任感の醸成を図る。		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
①		
②		

後期への改善点	
①	
②	

(様式 2)

大阪市立大東小学校 令和 8 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】 ● 小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年においても前年度より 0.05 ポイント向上させる。(R07 : 3 年 1.05、4 年 0.92、5 年 1.10) ■ 本校独自実施の 1・2 年全国テストにおける、国語の平均正答率の対全国比を、1 年は 100.0 以上にし、2 年は 1 年次 (99.7) と経年比較し 0.5 ポイント以上向上させる。 ■ 小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、3 年は 1.00 以上にする。 ● 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方について気付いたりすることができていますか」に対して、肯定的な回答する児童の割合を 83%以上にする。(R07 : 81.7% [3 年 93.0%、4 年 76.9%、5 年 84.2%、6 年 72.5%]) ■ 学校生活アンケートにおいて、「みんなの力で考え、調べ、話し合ったりしながら授業を進めていますか」に対し、最も肯定的に回答する児童の割合を 65%以上にする。(R07 : 63.4%) ■ 学校生活アンケートにおいて、「運動 (体を動かす遊びを含む) やスポーツをすることは好きですか」に対し、肯定的に回答する児童の割合を 88%以上にする。(R07 : 86.2%)	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向番号 4、誰一人取り残さない学力の向上】 ○ 基礎・基本の定着と個別最適化を念頭に、国語科の学習指導を充実させる。 指標 ➤ スキルタイムを活用して、週 1 回以上国語科の基礎学習 (漢字学習やデジタルドリルなど) に取り組ませる。	
取組内容②【基本的な方向番号 4、誰一人取り残さない学力の向上】 ○ 「主体的・対話的で深い学び」の推進、言語力・読解力・コミュニケーション能力の育成に向け、授業力の向上を図る。 指標 ➤ 有識者を招聘し、国語科の指導力向上に向けた校内研修会を年 2 回以上実施する。	
取組内容③【基本的な方向番号 8、健やかな体の育成】 ○ 「ポジティブ行動支援 (PBS)」のアプローチを活かした体育科の授業研究を進め、運動やスポーツにおける有能感や達成感を味わわせながら、体を動かすこ	

との楽しさや素晴らしさを感じられるよう、児童の運動意欲の向上を図る。	
指標	
➤ 体育科において、児童の有能感や達成感の向上を目指す授業を進めるため、大学教授を講師として招聘し、授業研究会を年３回以上実施する。また、これまでの取組についてまとめるとともに、区内に発信する。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
①	
②	
③	
後期への改善点	
①	
②	
③	

(様式 2)

大阪市立大東小学校 令和 8 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】 - 令和 11 年度末の学力経年調査の「学習者用端末を活用して、調べた情報をもとに、課題を解決するために情報を収集・整理し、まとめ、表現する取り組みをしていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 40%以上にする。(新設) - 教員の 1 か月あたりの平均時間外勤務時間を 20 時間以下にする。(R08 : 20 時間 11 分)	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容① 【基本的な方向番号 6、教育 DX の推進】 ○ 児童が、学習者用端末を活用して、自らの考えや表現を仲間と共有する学習活動を取り入れる。	
指標 ➤ 学習者用端末のキャンバやスカイメニュー、パワーポイント等を活用して、各学年の発達段階に合わせ、教科横断的に自らの考えや表現を仲間と共有する学習活動を、年 3 回以上取り組む。	
取組内容② 【基本的な方向番号 7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 ○ 教職員のワーク・ライフ・バランスの調和と「働きがい」の醸成を進めるべく、教材研究や児童と関わる時間を確保する。	
指標 ➤ 教科担任制や評価 2 期制など、カリキュラム・マネジメントによる授業時数の適正化を進め、教科等総授業時数の対標準授業時数比を前年度より 0.01 ポイント以上減少させる。(R08 : 1.05[1 年 1.10、2 年 1.06、3 年 1.06、4 年 1.01、5 年 1.03、6 年 1.03])	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
①	
②	
後期への改善点	
①	
②	